

ブラッセル日本人学校  
校長 岡田 真 治ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応について  
(第十八報)

向寒の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校教育活動の推進にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

11月17日(水)に協調委員会が行われ首相府よりコミュニケが発出されました。在ベルギー日本国大使館領事メールの仮訳文によりますと、ベルギーの感染者数、入院者数、集中治療室の患者数はこの2週間でほぼ2倍になったということです。そのため医療機関の機能不全を防止し、教育及び経済が可能な限り通常に機能するためにと様々な措置が示されました。

近隣諸国に目を向けますと、第5波が猛烈なスピードで広がっているようです。一日の新規感染者が過去最高を記録する国もあります。ドイツは伝統のクリスマスマーケットの開催を全国で中止し、オーストリアではワクチン接種の義務化が打ち出されました。これらの状況を「今、欧州はパンデミック(世界的大流行)最大の試練に直面している」と表現しているマスコミもありました。

本校においてもこの第5波には大きく影響を受けております。日本においては異例となる内閣総理大臣による休校要請により、2020年3月2日から6月30日まで日本国内の義務教育諸学校、高等学校等が休校となりました。その3月から約500日の間、本校では数名の陽性者がありましたがほぼ単発的な事案であり、偽陽性の可能性も払拭できないと認識しておりました。これはベルギーにおいて1日4万人の新規感染者が出ていた期間においてもということです。

ところが、本年10月末日から複数のPCR検査陽性事案が連続して発生しました。皆様方のご理解とご協力により即時オンライン授業に切り替えるなどして適切に対処し、コンタクトトレーシングにおいても当該児童生徒以外のクラス全員へのPCR検査要請や、さらなる追加措置要請といった事態とはなりません。

今回の複数発生事案は①9月から政府の規制解除に伴い、これまでの閉塞感の反動から一気に開放感が社会全体に広がっていること②季節的要因③変異株の問題などがあったかと思えます。

学校は様々な企業のご子弟をお預かりしているということで、人の交わりが多く、いわば交差点となります。色々なところから感染が持ち込まれやすく、逆に学校を起点とした感染拡大を防ぐ観点から、常に厳しめにルール設定をしており、皆様方のご理解とご協力により運営できております。

このコロナ禍の状況はもうすぐ2年となります。未だ先の見えない閉塞感がありますが、一方で伸びゆく子供たちの成長を、今しかないかけがえのない学びの時間を大事にしていかなければなりません。

そのために『感染可能性を下げながら最大限対面授業(日常生活)を維持する』こと、これにより教育課程の完全実施を前提として、様々な制約があるなかではありますが体験活動等、学校の教育活動をできるだけ充実させて参りたいと思っております。

日々状況が変化していることから、常に関係機関と連携し正しい情報の収集に努めながら即時対応して参ります。非常事態にあるわけですが、矜持をもって落ち着いて行動して参りましょう。

## 記

## 1 ブラッセル日本人学校の対応方針について

## (1) 基本的な考え方

感染可能性を可能な限りゼロに近づけることを第一義にするなら、人と人の接触を減らすためオンライン授業を基本としなければなりません。しかし、本校では対面授業を可能な限り維持しながら、感染拡大防止のため効果的にオンライン授業を実施することにより『感染可能性を下げながら、結果として最大限対面授業(日常生活)を維持する』ことを目指しています。

ア これまでの取組を維持すること

(ア) 本人及び家族がPCR検査受検段階から出席停止とします。PCR検査を受けるということは、感染の可能性があるということだからです。陰性証明取得のためのPCR検査受検についてはこの限りではありませんが、陽性だった場合は速やかに連絡願います。

(イ) 各学年ごとのバブルを維持します。小学部(1、2階)と中学部(3階)は動線ははじめ生活フロアを分けて活動しています。昼休みの外遊びはエリア分けして継続します。

(ウ) マスク着用の励行を継続します。手洗いやアルコール消毒など感染予防を奨励します。

(エ) 厚着を奨励したうえで、こまめな換気の実施を継続します。

※二酸化炭素計測メーターの設置と活用(38台購入)～通常は風通しのため窓一カ所以上、ドア一カ所を開けていますが、警告音(1000ppm設定)により、すべての窓とドアを開けて空気を入れ換えます。(日本の基準では1500ppm)

(オ) 次亜塩素酸ナトリウムを使用したドアノブ消毒などを継続します

イ これまでの取組の変更点について～当面は2学期終業式まで

(ア) ソーシャルディスタンスを守った児童集会(多人数が集まる活動)など、活動を広げていた部分の一時見合わせを行います

(イ) 昼食を班ごとで食べることを再度禁止し、授業同様、黒板を向いて食事をするとし

ます。

(2) 出席停止措置のルール確認～最近の事例から

ア 風邪症状や風邪症状のため念のため学校を休ませる場合は出席停止とします。ただし、その場合は感染予防のための措置ですから、兄弟姉妹も一緒に出席停止措置となります。また、長引く場合はホームドクターなど医療機関の受診を推奨します。

イ PCR検査を受けることが分かったときに、児童生徒が登校していた場合は、『感染可能性を下げながらも最大限対面授業（日常生活）を維持する。』の原則を適用し、その翌日から出席停止とします。例えば保護者が家族を病院に連れて行くなど対応している中で、登校中の子供を迎えに来なければならないという負担を避けるためです。

なお、PCR検査受検連絡が16時以降であった場合は、オンライン授業準備等の対応が困難であるため（外国語会話を含む）翌日も登校になる場合があります。

※繰り返しになりますが、そもそも現地校のルールよりPCR検査受検者が出た段階でのオンライン授業切り替えは、合理的ですが厳しいルールとなります。『感染可能性を下げながら最大限対面授業を維持する』という観点から引き続きご理解いただきたいと思います。

ウ イの事案があった場合は、当該バブルの健康観察を徹底してモニタリングします。感染拡大の兆候があった場合はすぐにオンライン授業に切り替えます。

エ PCR検査陽性反応がでた場合に、その後一週間ごとにPCR検査を受検させ、陰性がでたら検疫隔離解消を指示されることがあります。こういった場合、不活性化したウィルスを検知してなかなか陰性にならないケースが報告されています。

医師が医学的見地から検疫隔離解消を指示しないのに、学校が再登校を認めることはできません。こういった場合は他の医師の意見を求めるなどの対策を検討してみてください。

参考までにWHOの推奨する退院及び隔離終了については、①症状の発症から10日後かつ、無症状で少なくとも3日以上②無症状の場合は陽性と判定されたPCR検査から10日後となっています。

2 儀式的行事等実施の考え方について

(1) 中学部予餞会、卒業式、小学部卒業式については、大変残念ではありますが来賓のご臨席を遠慮いただきました。令和2年度と同様、当該卒業生とその保護者、担任と一部教員のみの参加とします。卒業式は人生の節目で大切な儀式的行事です。閉鎖空間での、集団における、長時間にわたる活動とならぬよう工夫して実施します。

- ① 卒業生とその保護者、教職員（必要最小限）のみの参加とします。
- ② 来賓の出席をご遠慮頂きます。来賓のご祝辞はプリントにて配付します。
- ③ 座席の空間を広くとり、時間の短縮を行います。
- ④ 式典にはアルコール消毒を準備します。

(2) 修了式、離任式については各教室で放送にて実施します。

修了式、離任式は3月11日の予定でしたが（昨年度は3月10日（水））、3月10日（木）に行います。3月11日（金）を休校とし、その日から春季休業日となります。

3 その他（再掲：17報）

(1) 小学部職員室（1階）と中学部職員室（3階）を分けて勤務しています。職員朝会や職員会議等はオンラインで実施しています。

(2) 担任はソーシャルディスタンスを意識し、マスク等着用していますが、児童生徒と一緒に過ごす時間も長く濃厚接触者と見なされる可能性があります。しかし、教科担任は濃厚接触者と見なされる可能性は低く、同じバブル所属と見なしていません。

(3) スクールバスの利用ルールについては現在行っている小学部と中学部の動線分けや運転手席の後部を空けたり、無言であること等のルールについては、バス会社の運行ルールが改定され、かつ本校のバブル解消が実現するまで継続します。

(4) 冬休み終了直前は、様々な状況把握により（協調委員会の内容等）、新学期の方針について保護者あてにメール送信する可能性があります。学校からのメールについて、こまめに確認をお願い致します。

4 今後、新型コロナウイルス感染症が本校の関係者から確認された場合について

児童生徒のみならず、保護者、教職員、教職員の家族から、新型コロナウイルス感染症が確認された場合の対応については「ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症対応について第15報」に詳細をまとめておりますのでご確認ください。なお、ベルギー国政府の対応方針が更新され、そのことが本校の学校運営、対応ルールに影響する度にアップデートしておりますので、最新の情報を常にご確認ください。第17報に記載しております完全な日常化（コロナ以前の学校体制）を「最終的なゴール」と見据え、引き続き必要な対応を遅滞なく講じていく考えです。

5月27日付ご家庭掲示用「児童生徒の出席の取扱い等について（更新版）」もご参照ください。これまで通り、「助け合い、励まし合い、志し高く」の精神で乗り切って参りましょう。

○ 特に新規の内容やこれまでの措置の再確認をお願いしたいところにはアンダーラインを引いています。

○ この件に関してご不明な点は、担当までご連絡ください。

担当 黒川 昌彦 矢野千恵子  
電話 日本人学校(02)672-1038